

愛知大学 上海交流センター

所長挨拶およびセンターの概要

■「現地主義教育」※拠点と、日本と中国双方の情報発信基地

愛知大学上海交流センターは、天津事務所(2013年開所)に続き、愛知大学現代中国学部を中心とする取組みが採択された文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業の一環として、2015年4月に正式開室しました。

当センターは、愛知大学の創学以来の伝統でもある実践的な「現地主義教育」に関する業務や、中国各地の大学や企業、地方自治体との連携拠点としての機能を主とし、広く世界で活躍できるグローバル人材の育成をサポートしていきます。また、上海にほど近い江蘇省の省都南京市は名古屋市と、また江蘇省は愛知県とそれぞれ友好提携関係を結んでいます。愛知大学は、上海外国語大学、上海交通大学、南京大学および東南大学という有力大学とも連携協定を結んでおり、このネットワークを活かした多様な活動も視野に入れ、日本人学生には、中国の現状を自分の目で見て知ってもらい、当センターと愛知大学が連携のもと、将来の中国通となる人材育成のサポートを積極的に行ってまいります。



愛知大学上海交流センター所長
村瀬 栄治

センターの主な事業概要①

■「現地主義教育」に関するサポート

中国で実施する「現地インターンシップ」は、3年次の夏季休暇期間中、2週間にわたり上海等の日系企業で研修を行います。派遣前の事前研修、派遣後の研究報告とあわせて、1年間にわたる正課の取組みです。

今後、本学の同窓会組織を活用しつつ、受入先企業の開拓を進めるほか、「現地主義教育」のコーディネーターおよび教学的サポート拠点としての役割を担います。

■「さくら21」活動に関するサポート

グローバル人材の育成には、外国語運用能力、異文化理解力の養成に加え、日本を深く理解し、外に向けて発信する力、「日本理解力」と「日本発信力」を身につけることが重要だと考えられ、これらの取組みを総称して「さくら21プロジェクト」と呼んでいます。

例えば、毎年中国で実施する「現地主義教育」の1つ「現地研究調査」は、中国人学生と共に中国語を駆使し企業班、都市班、農村班などに分かれフィールドワークに取組みます。ここに「さくら21プロジェクト」の課題を取り入れ、「日本との比較」という視点を盛り込んで、より多角的に調査し、最終日には現地で中国語による成果報告会を開催します。これは「日本理解・発信力」の実践の場であり、本学が育成しようとするグローバル人材像に極めて適した取組みです。本センターは、この取組をサポートします。



現地プログラム



現地研究調査



現地インターンシップ

※「現地主義教育」とは…

本学のDNAでもある、現代中国学部創設以前からの伝統ある現地での実践的なプログラム。「現地プログラム」「現地インターンシップ」「現地研究調査」を3本柱とする。上述の「現地インターンシップ」「現地研究調査」以外に、「現地プログラム」では、2年次の4か月間、中国（南開大学）・台湾（国立台湾師範大学）・マレーシア（南方大学学院）のいずれかに同学部生全員が留学する。

センターの主な事業概要②

■ 中国各地の大学との連携拠点、本学留学生等の交流の場

中国各地の大学、とりわけ華中・華南における大学との連携拠点となるほか、中国における情報発信基地としての役割を担います。

中国では、愛知大学で学んだ多くの卒業生および中国人留学生が活躍しています。彼ら同窓生と日本人留学生等との交流・情報交換の場としても、積極的に活用していきます。



豊橋キャンパス 大学記念館

愛知大学の紹介

愛知大学の前身ともいえる東亜同文書院(後に大学)は、1901年中国上海に設置された日本の海外高等教育機関として最も古い歴史をもちます。当時、アジア随一の国際都市であり、文化や流行の発信地でもあった上海で、学問の自由を尊ぶ校風のもと、中国・アジア重視の国際人を養成。しかし、戦争終結とともに東亜同文書院大学は閉校され、半世紀にわたる歴史の幕を閉じました。その折、同大学最後の学長を務めた本間喜一(後に最高裁判所事務総長)は、新たな大学の設立を決意し、1946年5月、本間学長の呼びかけに東亜同文書院大学等の教職員、学生の多くが集い、同年11月15日、「智＝知を愛する者が集う」中部地区唯一の旧制法文系総合大学として愛知大学は誕生しました。

2012年4月、「第二の創学・建学」とも称すべき取組みの1つとして、名古屋市「ささしまライブ24地区」に名古屋キャンパスが開校されました。この他、豊橋および車道を含め3キャンパスを持つ本学は、それぞれの特徴を打ち出しながら、「グローバルな舞台で積極的に挑戦し活躍できる人材育成」、「まちのにぎわいづくり」、「高度な専門職業人の養成」、「社会人リカレント教育」、「地域貢献・連携」を念頭に、さらなる教学体制の充実を目指します。



名古屋キャンパス



車道キャンパス

■ **総学生数**：10,372名(大学院、専門職大学院、短大含む) ※2014年5月1日 時点

■ **学部構成**：名古屋キャンパス：法学部、経済学部、経営学部、現代中国学部、国際コミュニケーション学部
豊橋キャンパス：文学部、地域政策学部、短期大学部、文学研究科
車道キャンパス：法科大学院(ロースクール)、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、中国研究科、国際コミュニケーション研究科

センター所在地

住所：上海市浦東新区東方路989号 中達広場3A楼

電話：+86-21-5018-2069

メール：shanghai@ml.aichi-u.ac.jp

